

長崎大学教育学部
多様な児童生徒の理解と対応における教師の困難・ニーズに関する調査

1. お答えいただきました内容につきましては守秘義務を遵守し、本調査研究以外の目的で使用することはいっさいございません。
2. 個人名や学校名等が外部から特定されることはございません。
3. お答えにくい質問はとばしていただいて大丈夫です。
4. 本調査用紙の提出をもって、調査への同意とさせていただきます。
5. Google フォーム(下記)をご利用になった場合も、本用紙はご提出をお願いします。

校務ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、2022年12月23日(金)までに各学校で指示された場所へご提出いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ◇ Google フォームからご回答いただく場合は、下記チェックボックスにチェックのみしていただき、ご提出をお願いします。(これ以降のページには何も記入しないでご提出ください)

Google フォームで回答しました。

- ◇ Google フォームの QR コードおよび URL



<https://forms.gle/Dff9qPn1tosYndoT9>

文部科学省「令和4年度教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
「共生社会実現におけた、通常学級における多様な児童生徒の理解と対応力を養成する
e-learning 科目と教職科目群(履修プログラム)の開発」



I 基本事項（フェイスシート）※各項目、当てはまるもの1つに○をつけてください。

★ここではご自身のことについてお伺いします。

○性別

- ①男性 ②女性 ③その他

○年齢

- ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代

○現在の校種

- ①幼稚園 ②小学校 ③中学校 ④高等学校 ⑤特別支援学校 ⑥その他（ ）

○現在の職種

- ①校長 ②副校長 ③教頭 ④主幹教諭 ⑤指導教諭 ⑥教諭 ⑦助教諭 ⑧養護教諭
⑨養護助教諭 ⑩栄養教諭 ⑪講師 ⑫その他（ ）

○現在の職務（小・中・高校の教員対象）

- ①通常学級担任 ②特別支援学級担任 ③通級指導教室担当 ④その他（ ）

○保有している免許・資格をすべて選んで○をつけてください。

- 教員免許 ()幼稚園
()小学校
()中学校：教科_____

()高等学校：教科_____

()特別支援学校（盲・ろう・養護学校を含む）

()養護教諭

()栄養教諭

()その他_____

- 資格 ()公認心理師
()臨床心理士
()学校心理士
()臨床発達心理士
()特別支援教育士
()看護師
()保健師
()理学療法士
()作業療法士
()言語聴覚士
()保育士
()その他_____

○通算教職経験年数（臨時的任用等の期間を含む）

- ①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上30年未満
⑤30年以上40年未満 ⑥40年以上

○勤務経験のある学校種をすべて選んで○をつけてください。

- ①幼稚園 ②小学校 ③中学校 ④高等学校 ⑤特別支援学校 ⑥その他（ ）

○特別支援教育に関する以下の職種の経験がありますか（臨時的任用等の期間を含む）

(1)特別支援教育コーディネーター

- ①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上30年未満
⑤30年以上40年未満 ⑥40年以上 ⑦経験なし

(2)通級指導教室担当教員

- ①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上30年未満
⑤30年以上40年未満 ⑥40年以上 ⑦経験なし

(3)特別支援学級（含：特殊学級）担任

- ①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上30年未満
⑤30年以上40年未満 ⑥40年以上 ⑦経験なし

(4)特別支援学校（含：盲・ろう・養護学校）担任

- ①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上20年未満 ④20年以上30年未満
⑤30年以上40年未満 ⑥40年以上 ⑦経験なし

○主たる教員免許状の取得方法

- ①国立大学の教員養成課程
②公立・私立の大学・短大で教員免許取得が卒業要件になっている学科（子ども学科、教育学科、児童発達学科等）
③①・②以外の学部・学科で教職課程を追加履修（国公立問わず）
④教職大学院
⑤専門学校・専修学校（教員養成所を含む）

○特別支援学校（盲・ろう・養護学校を含む）教諭免許状を保有している場合の種別

- ①一種 ②二種 ③専修

Ⅱ 多様な児童生徒の支援経験・支援課題

★以下 A～D の 4 つの群の児童生徒について、それぞれ支援経験や支援課題についてお聞かせください

A. 軽度知的障害、発達障害(ASD・ADHD・LD)とその可能性のある児童生徒

軽度知的障害：発達期までに生じた知的機能の障害により、知的発達が実年齢よりも低い知能指数 (IQ) 50～69 の水準にとどまり、適応能力は正常またはやや遅れがある状態
発達障害：自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの

○児童生徒との個別的な関わり（指導・支援）の経験はございますか。

①ある ②ない

○児童生徒の保護者との関わり（支援・助言等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○実態把握（観察・面接・検査等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○ケース会議の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の指導計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の教育支援計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○外部機関や専門家との連携の経験はございますか。

①ある ②ない

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって困難・課題を感じることはありますか。

①ある ②ない

▶ 「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを 5 つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進

A. 軽度知的障害、発達障害(ASD・ADHD・LD)とその可能性のある児童生徒

- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他 ()

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって望む研修内容がありますか。

- ①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他 ()

○この群の児童生徒を指導・支援するにあたって感じる負担感はございますか。

- ①まったく感じない ②あまり感じない
- ③やや感じる ④とても感じる

▶(③・④を選んだ先生へ) 負担感を感じる理由を3つ選んでください。

- ①自身の知識理解の少なさ
- ②自身の指導経験の少なさ
- ③児童生徒の学習上の困難さ
- ④児童生徒の対人関係の困難さ
- ⑤児童生徒の行動上の困難さ
- ⑥保護者対応の難しさ
- ⑦研修機会の少なさ
- ⑧校内の理解・支援体制の不十分さ
- ⑨外部との連携の難しさ
- ⑩地域の理解・支援リソースの不十分さ
- ⑪その他 ()

B. A 以外の障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、言語障害等）のある児童生徒

視覚障害：視力や視野等の視機能に障害があり、見ることが不自由又は不可能になっている状態
聴覚障害：音をきく、または感じる経路になんらかの障害があり、話し言葉や周囲の音がきこえなくなったり、ききづらくなる状態
肢体不自由：身体の動きに関する器官が病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態
言語障害：発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのため本人が引け目を感じるなど社会生活上不都合な状態

○児童生徒との個別的な関わり（指導・支援）の経験はございますか。

①ある ②ない

○児童生徒の保護者との関わり（支援・助言等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○実態把握（観察・面接・検査等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○ケース会議の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の指導計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の教育支援計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○外部機関や専門家との連携の経験はございますか。

①ある ②ない

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって困難・課題を感じることはありますか。

①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発

B. A 以外の障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、言語障害等）のある児童生徒

- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他（ ）

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって望む研修内容がありますか。

- ①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを 5 つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他（ ）

○この群の児童生徒を指導・支援するにあたって感じる負担感はございますか。

- ①まったく感じない ②あまり感じない
③やや感じる ④とても感じる

▶（③・④を選んだ先生へ）負担感を感じる理由を 3 つ選んでください。

- ①自身の知識理解の少なさ
- ②自身の指導経験の少なさ
- ③児童生徒の学習上の困難さ
- ④児童生徒の対人関係の困難さ
- ⑤児童生徒の行動上の困難さ
- ⑥保護者対応の難しさ
- ⑦研修機会の少なさ
- ⑧校内の理解・支援体制の不十分さ
- ⑨外部との連携の難しさ
- ⑩地域の理解・支援リソースの不十分さ
- ⑪その他（ ）

C. 精神疾患(抑うつ、心身症、統合失調症等)、外国人児童生徒、不登校、経済的な困難及び養育(虐待、マルチリートメント含む)に課題のある家庭の児童生徒、性的マイノリティ(LGBTs)等の児童生徒

マルチリートメント：子どもへの不適切なふるまい。児童虐待の定義とほぼ一致し、身体的(暴力・体罰)、性的(子どもへの性的行為)、心理的(言葉による脅し、強い叱責、無視、差別的扱い)なものと、ネグレクトを包括的に指す。

○児童生徒との個別的な関わり(指導・支援)の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○児童生徒の保護者との関わり(支援・助言等)の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○実態把握(観察・面接・検査等)の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○ケース会議の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○個別の指導計画作成の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○個別の教育支援計画作成の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○外部機関や専門家との連携の経験はございますか。

- ①ある ②ない

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって困難・課題を感じることはありますか。

- ①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり

C. 精神疾患（抑うつ、心身症、統合失調症等）、外国人児童生徒、不登校、経済的な困難及び養育（虐待、マルチリートメント含む）に課題のある家庭の児童生徒、性的マイノリティ（LGBTs）等の児童生徒

- ⑮学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑯地域との連携、理解啓発
- ⑰その他（ ）

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって望む研修内容がありますか。

- ①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他（ ）

○この群の児童生徒を指導・支援するにあたって感じる負担感はございますか。

- ①まったく感じない ②あまり感じない
- ③やや感じる ④とても感じる

▶（③・④を選んだ先生へ）負担感を感じる理由を3つ選んでください。

- ①自身の知識理解の少なさ
- ②自身の指導経験の少なさ
- ③児童生徒の学習上の困難さ
- ④児童生徒の対人関係の困難さ
- ⑤児童生徒の行動上の困難さ
- ⑥保護者対応の難しさ
- ⑦研修機会の少なさ
- ⑧校内の理解・支援体制の不十分さ
- ⑨外部との連携の難しさ
- ⑩地域の理解・支援リソースの不十分さ
- ⑪その他（ ）

D. 特定分野に特異な才能のある児童生徒

特定分野に特異な才能のある児童生徒：定義は定められてないが、在籍学級を問わず、言語、数理、科学、芸術、音楽、運動等、様々な領域に高い能力がみられる子ども、特定の領域における優れた能力や、特定の事柄への強い関心、創造性や集中力、記憶力などがみられる子ども、言語能力や思考力など知的な側面が年齢に比べて著しく発達している子ども等をさす。またIQなどの特定の数値結果の高さのみを判断基準とせず、同時に学習上・学校生活上で困難を抱えている子どもも含まれる。

○児童生徒との個別的な関わり（指導・支援）の経験はございますか。

①ある ②ない

○児童生徒の保護者との関わり（支援・助言等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○実態把握（観察・面接・検査等）の経験はございますか。

①ある ②ない

○ケース会議の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の指導計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○個別の教育支援計画作成の経験はございますか。

①ある ②ない

○外部機関や専門家との連携の経験はございますか。

①ある ②ない

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって困難・課題を感じることがありますか。

①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり

D. 特定分野に特異な才能のある児童生徒

- ⑧学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑨地域との連携、理解啓発
- ⑩その他 ()

○この群の児童生徒の指導・支援にあたって望む研修内容がありますか。

- ①ある ②ない

▶「①ある」場合、特に困難・課題を感じることを5つ選んでください。

- ①知識理解
- ②個々の実態把握
- ③教科指導
- ④教育課程の編成
- ⑤自立活動の目標設定・指導
- ⑥評価の方法
- ⑦就学・進級・進路に関する情報収集、支援
- ⑧管理職の知識・共通理解・連携
- ⑨教員間の知識・共通理解・連携
- ⑩合理的配慮の提供内容・提供方法等の検討
- ⑪合理的配慮の実施
- ⑫個別の教育支援計画の作成
- ⑬個別の指導計画の作成
- ⑭個に応じた授業づくり、教材開発
- ⑮ユニバーサルデザインを考慮した授業づくり・学級づくり
- ⑯他の児童生徒の理解促進
- ⑰保護者への対応、関係づくり
- ⑱学校外の専門家・専門機関との連携
- ⑲地域との連携、理解啓発
- ⑳その他 ()

○この群の児童生徒を指導・支援するにあたって感じる負担感はございますか。

- ①まったく感じない ②あまり感じない
- ③やや感じる ④とても感じる

▶(③・④を選んだ先生へ) 負担感を感じる理由を3つ選んでください。

- ①自身の知識理解の少なさ
- ②自身の指導経験の少なさ
- ③児童生徒の学習上の困難さ
- ④児童生徒の対人関係の困難さ
- ⑤児童生徒の行動上の困難さ
- ⑥保護者対応の難しさ
- ⑦研修機会の少なさ
- ⑧校内の理解・支援体制の不十分さ
- ⑨外部との連携の難しさ
- ⑩地域の理解・支援リソースの不十分さ
- ⑪その他 ()

Ⅲ 多様な児童生徒の指導・支援に関する教員養成・教員研修の課題

★ここでは、これから教員になる学生が、大学等で学んでおくべきと思われる課題についてお聞きします。

○今後もっとも学んでいきたいと考える対象を1つ選んでください。

※それぞれの用語説明は前ページをご参照ください。

- ① A.軽度知的障害、発達障害（ASD・ADHD・LD）とその可能性のある児童生徒
- ② B.上記以外の障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、言語障害等）のある児童生徒
- ③ C.外国人児童生徒、不登校、経済的な困難及び養育（虐待、マルトリートメント含む）に課題のある家庭の児童生徒、性的マイノリティ（LGBTs）等の児童生徒
- ④ D.特定分野に特異な才能のある児童生徒

○いま特に身につけたい専門性を5つ選んでください。

- ①障害の理解
- ②実態把握・アセスメントの方法
- ③幼児児童生徒の発達の理解
- ④個別の指導計画の作成と活用
- ⑤個別の教育支援計画の作成と活用
- ⑥特別支援学校の学習指導要領
- ⑦自立活動の内容と方法
- ⑧年間指導計画の作成
- ⑨学習指導案の作成
- ⑩教科書事務
- ⑪キャリア教育
- ⑫交流及び共同学習の進め方
- ⑬就学相談（就学手続き）・教育相談
- ⑭保護者との連携・協力
- ⑮校内・外の支援体制づくり
- ⑯授業づくり（個に応じた工夫・配慮）
- ⑰学習状況の評価・指導要録の記入
- ⑱他機関との連携
- ⑲UD教育、学びのユニバーサルデザイン
- ⑳事例、具体的な指導例
- ㉑学校現場の訪問・見学
- ㉒その他（)

○多様な児童生徒について特に大学等教員養成段階で学んでおきたかった内容を5つ選んでください。

- ①障害の理解
- ②実態把握・アセスメントの方法
- ③幼児児童生徒の発達の理解
- ④個別の指導計画の作成と活用
- ⑤個別の教育支援計画の作成と活用
- ⑥特別支援学校の学習指導要領
- ⑦自立活動の内容と方法
- ⑧年間指導計画の作成
- ⑨学習指導案の作成
- ⑩教科書事務
- ⑪キャリア教育
- ⑫交流及び共同学習の進め方
- ⑬就学相談（就学手続き）・教育相談
- ⑭保護者との連携・協力

- ⑮校内・外の支援体制づくり
- ⑯授業づくり（個に応じた工夫・配慮）
- ⑰学習状況の評価・指導要録の記入
- ⑱他機関との連携
- ⑲UD教育、学びのユニバーサルデザイン
- ⑳事例、具体的な指導例
- ㉑学校現場の訪問・見学
- ㉒その他（ _____ ）

○大学時代にもっと学んでおきたかった講義内容を 5つ 選んでください。よろしければ具体的内容もお聞かせください。

- ①障害児教育（特別支援教育）の基礎理論に関する講義

具体的に

- ②障害児教育（特別支援教育）の心理学に関する講義

具体的に

- ③障害児教育（特別支援教育）の指導法に関する講義

具体的に

- ④障害児教育（特別支援教育）の教育課程に関する講義

具体的に

- ⑤視覚障害に関する講義

具体的に

- ⑥聴覚障害に関する講義

具体的に

- ⑦知的障害に関する講義

具体的に

- ⑧肢体不自由に関する講義

具体的に

- ⑨病弱・身体虚弱に関する講義

具体的に

- ⑩発達障害に関する講義

具体的に

- ⑪重度重複障害に関する講義

具体的に

- ⑫言語障害に関する講義

具体的に

⑬情緒障害に関する講義

具体的に

⑭障害以外の多様なニーズ（貧困・虐待・LGBTs等）に関する講義

具体的に

⑮特別支援学校の訪問・見学

具体的に

⑯特別支援学校での実習

具体的に

⑰その他

具体的に

○特別支援学校教諭免許状はすべての教員が持つべきだと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

○特別支援学級担当者免許の創設は必要だと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

○今後受けたい長期研修の期間

- ①1ヶ月 ②3ヶ月 ③6ヶ月 ④1年 ⑤1年以上

○今後受けたい長期研修の方法

- ①教育センター等での講義を中心とした研修
②教育センター等での実践を中心とした研修
③大学での講義を中心とした研修
④大学での実践を中心とした研修
⑤国立大学附属学校園での研修
⑥教職大学院での研修
⑦国立特別支援教育総合研究所での研修
⑧他の学校や施設等の見学
⑨その他（ ）

IV その他

○通常学級で前述の A～D の児童生徒を担当することになったらどのようなことが不安ですか。

★通級による指導のご担当経験がない先生方へ

○通級による指導を担当することになったらどのようなことが不安ですか。

★特別支援学級のご担当経験がない先生方へ

○特別支援学級を担当することになったらどのようなことが不安ですか。

○共生社会の実現に向けて何が必要だと考えますか

質問はここで終了となります。ご協力いただきましてありがとうございました。